

小幡庵日誌
昭和十三年
一月申定以迄

特別

14

1919

633

35

40

45

50

小精廬日誌

昭和十三年十一月二十日以後

十一月

二十日

日

晴、山又一と、東山、舟崎、仁一と、生鮭一尾、
未、秋山、定輔の、作と、請、予の、投、行、を、牧、り、早
稲、田、号、報、三、揚、州、報、行、を、著、其、夜、二、入、り、兩、舟
崎、二、海、を、見、る、事、

二十一日

時朝来雜好と兼す、以て数人今より會向鍊一
小井峰松尾河、今の軍人惣あつたの信し、金十圓
寄附す、数来此世の抄業に酒飲し、午時
清め奉之と梁ねと記し、山田河心と旗
巻本二冊川末、新着の好書あり、其定座
より梨果一函到来

二十二日

時朝来此座を筆あり、其定座に酒をわす
宗家の妹及び其弟、十時半に雲時方長し

榎原製

（書之）

校及清大兼山湯帖と抄本館定を清をまゝ、常
盤大定校士出収紀念令出座、断のり、其橋渡と
し、福島河の小海老と歸り来り、秋山定帖
係と後、午後校上代診来り注射を施す、五
時、徳志復知山田主催の會、臨む、今座より
のり、廿四、三村、宇奈、山田、木村、あか

二十三日

新書祭

時、朝来此座を筆あり、新着の日記、銀大、り
り来り、其橋渡と、其をわす、村山秋浦の伴来

訪、二三の玉拍、是、答を心つてをう。秋山定輔縁を後
に午後二時、不忍池の生地院：催さん等、敗者も
味、分と臨む、蓮に因ら、骨董、教士、村夫、席上
評、松、宇、中、村、梅、をり、(春重)守田、次、兵
衛、花、房、有、恒、(号、梅、東)等、公、等、余、安
席、一、杯、の、後、飲、を、済、す、本、の、日、が、紀、人、毎、川
崎、氏、大、賀、一、中、也、野、村、保、中、中、と、柿、を、寄
て、あ、る、海、中、区、内、人、の、加、後、の、見、舞、を、あ、る、
酒、公、を、送、り、う、夜、中、頻、々、地、中、あ、る、

榎原製

二十四日

晴、朝、来、難、船、を、あ、る、島、山、車、三、年、う、政、外、の
書、物、の、あ、る、影、を、あ、る、故、来、心、也、を、贈、り
次、生、物、を、あ、る、あ、出、中、海、中、夫、也、又、訪、洋
花、を、贈、り、う、野、村、保、中、中、海、中、を、あ、る、午、に、よ
り、微、雨、利、ふ、と、抑、晴、候、冷、場、分、の、金、堂、大、火、散、来
り、除、其、の、焼、器、を、あ、る、午、後、内、表、大、堂、本、坊、白、唐
千、粒、法、を、贈、り、う、時、法、を、あ、る、越、後、傑、人、権、利
未、又、安、田、文、庫、を、あ、る、鐘、之、時、の、あ、り、利、未

二十五日

晴風あり於おをきき大形船に敷葉叶葉の酒飲
してゆき午時中、前島に、宮崎より高田敷船
と見えし下船止し、入夜、船長より、
と申報あり、心并し、思ひ、日柄伊呂共海軍、
年より、この回、海軍の敷葉、うじ、ス、由り、侍り

二十七日

晴風あり、防室、淡、なる、船、ま、
り、山、末、の、船、定、や、い、の、め、ら、し、を、請、ふ、北、吉、宮、白、紙、ハ

稗原製

去去の若し、主政、天、保、間、の、體、定、の、名、家、也、
日本郵船、より、六、分、の、配、向、一、号、の、内、船、又、定、よ、り、
お、合、の、件、に、つ、き、雪、路、来、り、午、後、二、時、サ、イ、シ、鳴、り、
行、儀、元、は、村、田、懋、磨、と、し、山、崎、坂、又、十、五、の、橋、
に、見、送、を、索、り、見、る、事、あ、り、一、函、お、つ、来、り、

二十七日

日

晴風あり、内、も、と、自、心、の、白、米、一、俵、を、寄、り、セ、し、ま、り、
入、院、し、ま、り、と、い、ひ、て、見、察、体、を、轉、き、夫、人、と、同、車、
し、市、大、の、坂、口、内、科、に、寄、り、を、診、し、
時、候、決、り、し、

昨夜を覚えてある。昨二十九日の夜を覚えてある。肺
炎大起と云う者からいふ。むねの風をいふ。と物づく。金中
爆発後、下路火の突況も見る。ゆきも二、三日動
車。傳へまゝ。午後三時のラジオの傳へる所から
敵隊の橋の上へ夜うまうま。船坐の花より雨を
敵隊のいん火突を起し、防衛団死力を出せ
備せをいふ。大混戦を極む。花をいふ。決りまある
さん。其。大混戦も。也。夜に。い。決りまある

廿八日

昨日今朝、夜決り。早大の教授金澤理彦
舟中。早大に行海軍省先遣部に入。航し行きの船
向と云う。説く不ある。里田正徳山陽の橋を焚
へま。敵突を起す。と云う。や。多。由。い。決りまある
東大政界新聞。日報社の囁く。高平。揮毫。六。交。を
寄。早大出版部を。印税。高。日。刻。未。午後。散
策。

二十九日

時園下二人社の千八百三十三の第一編の初金三万

引出し家用に充つ、静に嘉吉文庫觀を命ぜらる
十一時出遊、二時帰宅、高田博士危馬の報利の
本多氏大府の魂の外交小村差の日露戦役の外交
を讀んで後、夜更に、本田回書、時分、聞き
聞き目録を案せしむ。

三十日

時朝未始、静に十一時、激突を感ず、得て
以名伊橋舟の七時、急を、午、動搖、致る、午
後、魂の外交を讀み、獨り、訪り、概、コンド、ン、ウ、夜、す、三、川

二安着

〇十二月

一日

時、回丁一人、及、町、民、服、を、以、文、在、古、寺、待、て、買
目、知、州、来、牛、込、差、移、り、の、ある、所、り、牛、込、支、店、へ、金、を
千、圓、一、千、圓、を、送、り、又、一、千、圓、の、金、を、金、代、り、勢
二、千、圓、政、府、へ、送、り、代、金、を、五、千、圓、と、之、を、送、り、上、代、金、を
の、内、を、併、せ、て、一、千、圓、の、金、を、一、千、圓、と、一、千、圓、と、一、千、圓、と、

早大政決料を辛費するべき事をもアルハムノ巻頭と
揮毫を要する事あり北城の報に於て痛を曰ふ。伊
孫世美もよき事。至極静平泊。多城依令
あり欠席

二

晴ふう午の隙と難く味嗜使も定むる事あり揮毫
北城の報に於て痛を曰ふ。伊孫世美もよき事。至極静平泊。多城依令
あり欠席
あり。大日本印刷今代も十七日祝も徳令の通候
あり。午後教保の要する事。書教も持し移し
入。近江の白田川大決り。山陽夫人の生比に於て

榎原製

去且つ梨島夫人信と答へて其のまゝに候と
あり。地に入り朝日新聞記者あり。協士の任歴
も徳令の事。需山大決と候。

三

昨夕龍舟の宴に時を絶命と教へし事あり。五
時半遊藝を定し移し。五日葬式と決す。十
時半其の宴を遊藝と葬式と葬儀。十一
日寒時早大の大決法を。これより大なる事執行
午前九時。自宅に談話あり。取りあへず

と一般の差別式を行ふ、ま位一段煙道のみ正
三位に叙せしむ、幣帛等、祭衣、靴、(十五日の)
下物式後、氏令、父母、葬、修、(遣)骸と送る
余、早く辭し、家、に、ゆ、く、西、川、太、江、の、を、頼
架、持、建、碑、の、給、む、う、き、と、一、言、と、あ、る、あ、又、一
り、と、し、来、也、又、阿、部、宮、に、住、む、と、し、来、也、且、つ
和、歌、を、よ、む、と、あ、る、

六日

晴、文、藝、春、秋、社、に、投、稿、を、寄、め、ま、の、大、賀、一、介
に、伺、ま、黒、田、正、保、山、陽、書、幅、并、扁、額、持、来、に、付、鑑

棟原製

定、也、を、か、く、小、木、望、三、身、派、文、藝、春、秋、社、に、投
稿、投、稿、を、約、す、東、浩、(實)下、り、出、版、部、と、し、
中、元、海、傷、と、し、こ、の、田、路、と、し、午、後、深、井、に、
赴、き、青、田、徳、士、の、埋、葬、所、に、参、り、余、の、ま、の、回、こ、就
この、遠、征、を、ま、ま、と、し、の、可、由、世、間、吹、響、に、登、載、を、
こ、の、大、賀、一、介、と、し、余、の、ま、の、回、こ、を、
し、来、の、但、し、空、名、を、一、再、来、と、し、稿、の、坊、日、版、に、こ、の、下、り、
帰、還、(念)と、し、又、進、

七日

晴、新、潟、生、田、和、田、ら、を、来、也、并、梨、田、の、を、鑑、す

お茶の山の大橋を造り、百人廿に北寄茶を
縁打ちを以てせ、佐伯仲花を母の位
様の持幅、是運を為し、後七信運を預
かる、十二時出、御所の三福に酒会す、此日
北支最長、指押官更迭、寺内大僧、冬
改官、日、移山元大將、其後任に補せり、
旧も後文、春秋、後、又、冬、冬、書、次、夕
刻成り、投部、

十日

藤原製

晴、瓜、休、伯、皇、深、の、囀、に、在、り、心、更、洋、先、軍、の、侍
幅、の、在、に、是、皇、帝、と、激、河、と、細、書、り、過、般、在、京、日
之所、多、を、以、り、政、府、の、去、部、の、金、の、志、(金、杯、金、時
計、録、書)、に、對、し、話、便、類、の、中、に、此、も、金、九
る、冬、十、四、五、十、四、支、と、報、し、来、り、高、田、と、我、を、来
出、余、の、為、書、言、十、數、に、お、山、和、備、の、去、大、主、目、報
指、其、の、去、十、七、百、支、印、の、報、を、也、十、一、所、教、果、不
以、以、の、舟、と、爲、し、し、ゆ、り、午、後、旋、舟、を、奉、り、
去、未、十五、の、事、の、爲、士、二、七、日、迄、馳、り、ゆ、り、高、田、家、に、
リ、日、の、大、使、を、候、に、候、り、ま、り、此、方、佐、伯、仲、花、等、の、料

書を交付

十一日

日

頃、天宮と催し、美濃のり、朝未、以、行、給、の、祀、ニ、寄、
す、き、り、年、節、有、給、と、申、心、も、成、ふ、午、時、初、
比、日、右、橋、迄、と、物、を、持、つ、て、ゆ、く、伊、勢、の、大、森、五、郎、
と、申、揮、毫、と、書、の、目、録、大、阪、の、山、本、儀、三、郎、と、
し、大、森、の、儀、を、持、り、来、

十二日

法華寺

頃、河、原、の、投、給、山、本、儀、より、い、ぬ、む、と、書、ま、し、の、
信、去、り、向、し、七、洋、書、箱、本、の、受、印、を、信、託、ま、す、午、
後、出、ぬ、所、の、於、依、に、寄、り、申、す、き、り、年、節、を、申、す、比、日、大、
江、に、在、り、月、詠、大、河、寺、立、り、色、の、大、堂、を、申、す、と、
（毎、後、大、人）の、山、本、儀、を、持、り、給、と、申、す、未、
の、時、申、す、南、八、の、子、と、申、す、申、す、申、す、の、子、を、寄、り、
と、申、す、西洋、史、所、究、の、文、士、の、由、時、問、外、
美、濃、の、寺、の、書、の、持、り、申、す、後、南、寺、を、持、り、未、
の、時、申、す、即、知、願、の、下、物、と、申、す、

十三日

晴、出陣の取遣に投す、へき茶碗を奉り七威
、早稲田を投の今井一守、夏時、野上、山田、清久
、本流、新花、モリゾウ、もも、木村、金剛、来、尾、三
、岸、も、池、也、利、高、村、も、美、高、葉、四、年、紀、念
、辰、辰、名、の、あ、ま、の、来、の、十、一、時、出、陣、三、旗、の、物、を、給
、ふ、物、の、増、は、内、事、の、所、唐、浅、田、激、務、は、可、成、物、の、
、中、傳、の、就、き、法、宗、の、簡、略、を、奉、り、奉、り、

十四日

桂河原

晴、朝、未、洋、装、に、於、本、套、印、と、附、是、き、ま、り、と、給、お
、才、次、口、献、ま、も、も、之、宇、尾、中、澤、吉、馬、某、を、給、り
、来、の、池、田、お、村、の、山、の、大、物、も、宇、尾、中、の、路、へ、お、村、の
、宇、尾、中、の、も、の、人、也、由、つ、て、丹、家、と、傳、ふ、も、一、也、午、時、
、お、と、し、木、校、合、の、~~御~~、~~事~~、と、雨、合、一、回、の、物、也、在
、朝、難、賀、回、互、流、り、林、橋、一、羽、利、来、大、二、神、山、彦
、大、中、の、一、餅、改、修、并、附、帯、二、中、信、助、定、三、百、八、十
、百、九、十、八、美、の、清、水、者、也、

十五日

頃朝米雜收を著す一初のとて預金の
うと優す、此所の外まに似しとゆふ、不立中、子
燈の備籍、此の事、福崎縣、此の橋本
島右工門と押巻を、福崎日子三よ
り物と贈り、神山三格所、餅の事、金巻
ち八十一日九十八、七、正金、三日、切手、万八、十
日、九、十、(吐)掛、海、五、時、と、事、向、家、の、取、付、會
の、懐、い、今、訪、大、隈、會、政、事、今、五、十、人、事、向、方
族、の、の、皆、半、大、同、係、人、也、宗、家、と、と、鶴、の、印、刻
す、目、も、須、苦、次、年、大、森、春、権、と、未、也、

津原

十一の

頃、世燈の、此、四、事、以、年、餅、と、投、付、と、治、人、張、と、及、す
若、向、々、故、其、法、方、何、注、文、の、塩、川、二、尾、利、来
新、島、の、方、も、次、ま、に、餅、一、斗、五、升、各、物、方、田、別
花、と、と、金、物、米、二、個、利、来、十、一、時、散、米、銀
事、の、當、生、者、と、物、と、物、入、の、部、山、の、有、橋、島
左、工、門、の、島、の、者、島、地、神、事、新、島、の、塩、川、代、十
二、四、五、十、美、込、金、宇、尾、渡、と、土、佐、産、紙、の
書、同、二、百、枚、賜、り、来、り、者、二、初、の、年、に、支、展
し、名、義、を、産、預、金、幾、百、二、千、九、百、二、四、十

十五日記

契と取し、仍て承記状をばらす、あゆみの御案
故交存し、余の志願を成し、政府と云ふは
金二代金と辨海へも吉道に、果、其吟
典二書、車泊、賢田直流、山若、時度と記
函殿と云ふ事也、

十七日

今朝微雨あり、幸印も、評甚同也二百餘冊
検出、故後塩川二尾大隈家へおわき、大
日本印刷會社、今といふ、本朝、能、年、八分、
新、百、果、亦、塩川別業、雜、家、と、業、加、り、因

田原

と云ふ、前、書、物、展、望、社、と、云、ふ、也、

十八日

昨夜大校、今より原、新、禮、十、九、日、の、雨、の、切、手
利、未、冬、所、と、云、ふ、事、品、の、利、未、漸、々、と、志、の、
十一時上、の、事、と、散、果、以、日、も、と、散、り、て、
海、中、区、又、且、珍、事、の、病、也、(就、也) 々、燈、を、
有、物、と、管、心、未、成、と、云、ふ、服、即、嘉、香、と、云、ふ、
道、若、と、寄、り、中、林、邦、の、外、の、研、究、
り、内、子、野、の、遺、物、事、と、類、二、と、贈、り、

十九日

早天、安田のり、中津、又、夫、全、三、堂、印、代、全、九、百、
三十、四、百、一、百、一、百、切、一、段、日、入、六、大、口、中、印、刷、部、由、金、
口、始、り、と、之、夫、形、有、三、福、之、酒、飯、し、極、上、之、先、而、
今、の、映、書、也、を、観、る、案、本、其、を、領、到、者、竹、本、位、封、り、
品、印、未、中、井、部、の、物、其、三、一、と、中、就、を、言、ふ、事、
大、死、去、

二十日

晴、服部、嘉、善、村、山、始、し、他、細、川、流、去、り、考、此、を

三十一日

書、す、昂、に、二、百、日、を、す、匠、の、謝、禮、満、て、身、田、
未、亡、人、病、氣、お、り、品、先、と、考、り、葉、子、抄、の、書、下、為、の、
家、可、法、難、解、と、著、り、し、時、を、移、す、四、日、多、
内、に、未、出、浮、田、和、氏、其、の、蟻、子、を、掃、く、る、長、
時、間、活、し、七、日、の、野、口、に、自、心、の、米、の、餅、を、送、り、
各、振、下、未、之、夜、合、別、在、四、日、の、長、谷、村、と、本、橋、一、
米、利、未、

二十一日

早、後、山、雨、朝、未、雪、情、に、投、す、る、も、あ、る、物、を、言、ふ、
細、川、代、更、来、以、に、付、女、用、洋、紙、を、校、本、の、五、文、印、を、托、

跡に村山秋浦の長巻巻一すう余の壽品を印
の仕末を大取願してまゝ十一の光を伴を数葉
新刊の非美と酒飲してゆつゝ午後六時典二
まの来訪、号燈に原稿を寄る夜にふり風

廿二日

和風つゝ、稿本を二つと改訂し出版部へ株主
況を告ぐる欠席、閑と兼して兩宗壇法一編を草し
自愛の道を説く、金八十五圓の予て交付、村山、夏印
てしめたる書道、夏品のの六點を印の代價に二十

冊子

一回と頼し来り、午敷料控除の計着也、午後天晴、
林の裏大く、う、紙前解らと生の毛、夏印、夏
き洋装の難本、毛、向の下、海、夏、近着の、夏、路、難
法、就、池田、夏、村、山、宮、新、考、を、稿、本、夏、入、り、夏、大
は、武、富、時、故、の、本、を、傳、ふ

廿三日

晴、少、取、部、と、配、与、金、五、十、七、圓、飲、ぬ、夏、山、景
三、の、若、女、幅、の、花、と、回、着、才、九、圓、半、の、刻、印、を、終、る、
山、の、傳、心、夏、法、京、下、の、首、書、外、一、配、本、為

回々教日法、大隈家より物を送り来るに任友
海防支店南條、款金現款五万三千四百七十一圓
敷い来る、又一円を大下りスホ、全集の世刊
を更し来る、重松一の女長男画する所の古保山
を坊より来る、示す、多分の筆名なること、さうと云ふ
お南画の天合ある、似たり、長と云ふ入し、共南
大下り、世刊を更し、出版部も、款金切替十五圓
を送り来る、金百圓の赤字に交付、午後散策、小
河村山、秋浦身訪、又上代二万十圓、五十圓、入、額取、五
久一、年、海防、を更し、又、長、西

二十四日

雨、風、雨の氣味あり、十時、夜、臥、日本橋、海防、
より、海防、共、十、萬、圓、入、回、り、書、籍、ひ、宛、り、新、送、り、年
の如し、本日、午後、武、古、印、の、先、お、式、々、人、々、の、風
邪、の、為、り、臥、ます、本日、漢、字、百、集、原、由、久、一、円、を、
出、印、の、由、り、お、を、送、り、新、送、り、の、事、も、お、新、送、り、の、
り、三、紙、と、難、法、の、移、を、お、出、す、り、

二十五日

日、大正天皇祭

時河川を新本と云上代七十由丈と云至朝日寺
部と云美河に云云金五十両史の時金八貫六日選
科匠五味内子の為め十貫と云所をも有書品と云
七月の向より内守を免職し拍と好むとの終の奉
中より寺の宗師谷村明徳と云千枚清一格別
去昨日未安物と痛此と云知而の瘰と云今秋十
二時をこき酒ためて瘰也と得す、痰酒を飲み漸や
く時

二十一

時、疾ふ勝んす朝と云疾に入、無熱らんも咳嗽を解
けず、亦便秘と困み下痢を服、其午後中山匠其珍真
候の變化を四年の病痕即り動くも其意あらず是
すと云、丹毒と云塩川利果、玉置佐と云如くも
或云杉山春雄の此と報りする、春雄、余の次の
久の子らう、杉山家引取らるる、其意あむり意あ
く、預けまうしに、暇久七没しなる、玉置佐、久人の
義時也、香典十月五貫、送る、七十五回昂、派
す、おのり以日献去らる、塩川と云、其意あむり、向院
開院式を行ふ

二十七日

晴此朝も武分氣分よく喧嘩未能とする者
中にも、此方の市原江古を併の物乞也利其の
甘小者皆十日家送、此等紙、敷す、開初以来敵の
地を略する本土の二倍、敵の委棄死八十二名と為
り、差出く、併軍送中、途中盗まん、
と、焼付と受く、村山を、残部仕末、(七)怪来、
不遇、重極、山口路の、
至、龍馬、差支と、
谷村、海と、

榎原製

二十八日

晴和田英、坂上弘、
白米一俵、
通知、
の雪、
春、
餅、

二十九日

晴、東京朝、
鶴、
文、
録、
新、
未、
塩、
海、
島、
文、
より

あつた納豆別来、唯、一、函也と云ふ、昔、中、小、説
と漢時を移す、午後、文、田、宅、と、故、人、遺、物、と、云
仲、島、春、蔵、が、手、書、作、書、二、冊、出、山、尾、巻、物、帝
用、杖、と、贈、り、来、り、文、三、冊、之、一、冊、十、四、巻、の、書、合
の、不、前、の、某、と、持、来、り、終、日、病、室、に、在、り、近、刊、政、文、大
日本、の、文、物、場、を、も、る、所、本

三十日

晴、生、田、七、郎、に、相、違、を、頼、り、手、製、の、陰、平、打、卷、大
笈、一、冊、向、士、と、蓮、根、と、贈、り、来、り、塩、漬、大、笈、向、士
と、是、も、故、上、書、物、と、贈、り、来、り、花、十二、時、迄

咳、吐、者、不、眠、と、曉、に、起、る

三十一日

晴、故、上、り、代、珍、母、の、注射、と、受、け、打、山、秋、清
東、條、賣、残、り、品、引、取、り、料、四、二、万、八、十、四、日
文、大、契、沖、外、三、號、向、打、山、秋、清、あ、り、又、春
分、の、花、新、潟、栗、林、と、切、餅、引、来、り

昭和十三年起居摘要

一 本年七十九歳を迎ふ

一 二月三日孤獨を越き、変持会を訪ひ、道徳の義を長しと悔む

一 二月十日故大隈侯生誕百年、故一永井通松主君の記念会、招ひ、早大出身の衆、松坂漢貞と共に丸之内、皇宮の廻り、参り、詣り

一 二月十日中山の法華経寺に四時参り、ひまわり、此寺の石河、一と想ひ、談話を為す

- 一 書畫管見雑誌の「長崎と寛政」の「おとせ」
- 丁又三月號「書畫」の「文筆の流」の「おとせ」
- 丁
- 一 仰里蓮池文庫「海峽の北前原史」の「三巻」
- 送上海
- 一 一月末出版部「一時的な全歌集」の「おとせ」
- 借入、二月中旬返付
- 一 都立大学の「おとせ」の「おとせ」の「おとせ」
- 小品欄を掲載せしむ
- 一 旅行雑誌「おとせ」の「おとせ」の「おとせ」

棟原製

- 一 住友銀行定期預金一萬七千円の「おとせ」
- を「おとせ」の「おとせ」の「おとせ」
- 一 昔の大衆教育「おとせ」の「おとせ」の「おとせ」
- の雑誌「おとせ」
- 一 二月十七日「おとせ」の「おとせ」の「おとせ」
- 「おとせ」の「おとせ」の「おとせ」
- 一 政教社の「おとせ」の「おとせ」の「おとせ」
- 「おとせ」の「おとせ」の「おとせ」
- 一 前島男「おとせ」の「おとせ」の「おとせ」
- 「おとせ」の「おとせ」の「おとせ」
- 一 新雑誌「おとせ」の「おとせ」の「おとせ」

一 富山房地名辞典の改版を企て、余の著者の
追憶談を清く、即ち其の新語「回漢」に録
編多量の時、予を好む者多

一 昭和十三年二月十一日帝國憲法公布五十年
に當り、衆議院より紀念杯を贈る事。

一 兎耳丹毒の病に罹り、北川崎をとりて治奉
漸やく愈む

一 舊の定文多崎士大崎正健死去又三月廿六
日天竺為之死去

一 帝國議會一日延長三月廿六日政府案全部議

榎原製

3

一 柱五十郎(湖村)死去 四月五。

一 昂略血着落、命を傷み 四月六。

一 余の山序を叙め、湖南詩鈔の出版。

一 三月下旬、四月中旬迄、春寒日録、一、二、三、
録、と隨筆、も記す

一 四月十日、深文内子様を、落し骨と挫く、
雪の季、手を主治迄、一、看後、命を傷めし、
静加、其の、数、月、一、直、漸、やく、愈、む、本、年、中、の、
大、事、件、と、す

一石川翁の横山亭卒去 四月十日

一在爪哇門生領事山崎恒助の「」に支那金

を寄附せしむる事ありし四月廿五日

一政界以来社、隣人一福を授す

一四月廿六日真砂林次郎、重忠とさきゆき

其病をえぬ、二日前病は、床に在りて

に祝をん廿九日也

一近江知微「」も有る御金廿一日到未、又東京

日「」も二日御金の「友を待」の御金廿一日

到未

櫻原製

一五十坪の墓の石柵の鏡下かにるを施し、

の修補を行ふ

一加納治幸の「外田」の船の途次船中、

急死

一西村文則の「市」の「新田公園」の墓

「」の長井重信の碑を「」の記を「」せ

能法「」す

一大坂毎日のホ「」ライ「」も十日の御金到未

一真砂林次郎の「」の御金、享年七十七歳、

十八日「」も歸す

一 丹吳新室建業中失火母屋を異状なし
 一 五月廿二日大隈會館に遠遊祭を行ふ中村
 歌右エツ三宅雪嶺夏花園追憶談を聞き
 一 五月廿五日坂上弘茂の松原病院の竣工式に
 白筆の扁額二枚を贈り、式場を祝辞を
 陳す
 一 書物展覧、需之店に「保蔵雜誌」と亦
 刊
 一 早大出版部より金の著書。印税百圓を
 領収 五月廿七日

榎原製

一 雜誌「民族精神」日本の女性と語らるる
 七寄す
 一 六月六日丙子臥床後五日、六月七日支那
 夏後滿一年
 一 六月十日大隈産生誕百年祭并文の協会の
 創立三十三週年紀念会も大隈会館に開
 く
 一 廣池千九郎死去
 一 六月十一日十二日十歌会同人と水郷の遊心を
 為す十一日親子二泊、十二日舟行香取麻

時先詣、後以十二橋葺きと訪ふて切京

・明正女院の女子四文選に余の過筆二篇と
挿入す又其女子四文を二篇を数す

・余の撰書に傳ふ新井御川治水碑 竣工まつて
六月十九日除幕式も行ふ行かず

・卯里五十箇所所有地の未敷ね獲八十九圓餘ぬ
六月十日

・予の壮年時政局に閑居するに際、際の田田法を了か
んとて衆庶院の筆意の史編を委なき長尾依
井、遂に外二人口付廿餘を筆の筆削り

榛原製

項を掲げ、又各書も需む、全二時寫つ、二回
讀法を速にせしむ、速にを少いからおろすは
一冊の家にある

・大日本印刷右期限當年八分八厘名義分
六万十七圓、書名義分万四千八百餘圓、計
・紙依合長を塔の義一、讀り余名先合
長に推著せしむ

・早大出版部本館印する十七圓餘ぬ
・信友館の支店も余の命を預金幾額
三千二万圓と報に來る、本年二月六日の

所け入の幾額とも
六月廿三日

六月廿九日卯の白山の國に枝を井戸の地に金碑
の陰幕と共に、祭典を奉ぐ、碑に余の拙書
より吉の記しをも跡す

七月一日の早大の所属にゆき相馬
永成の舊邸を留めて女庭園をお造り
児をて揺籠せしむ

故者井一の遺徳又と北城の神社と授す
早大出版部と中元謝儀三万圓到着
七月
改神地方の水堀甚しく神に市俵福の中心

棟原製

つを浸め家伝令市戸町の七割(幸)了出る
留るる六甲山崩れ、住まざるの市家別荘
く懐減す

一 小西位ハハ十五才を死す葬す

一 七月七日支事妻の二内年記念る也
懐減す
優沢を賜ふ

一 亡才也下林身作死す七月

一 林若村鳩山春子死す

一 喜好社次郎の遺お利来七月

一 七月廿三日夜行出る廿四日朝新あつる

校及令と臨む、一行四中流を令舟に尋ね行州
清村、野口、多内、岳を訪ひ又松ヶ崎に赴き
新井卿の建碑を乞ふ、南境新田に到り、白
地の校友と分ふあり、仁念を以て余の家祖手
澤の淳化法帖を贈り、多内、野口、

一 上野長谷川次郎去り、其の田に於て其墓を乞ふ
一 皇軍九江を以て鎮す、七月廿三日

一 新田野井甚中、其の田に於て其墓を乞ふ、
津巻と令舟と地を乞ふ、其の墓を乞ふ、
也、一、七、其の

一 立江津の川合立次郎去、八月廿三日

一 内子怪我の巻の百日、其の田に於て其墓を乞ふ、
漸やく立ち寄る

一 赤坂淑子、八月廿三日、有賀、其の田に於て其墓を乞ふ、
其の田に於て其墓を乞ふ、

一 葉女史の旧法を傳へ、其の田に於て其墓を乞ふ、
其の田に於て其墓を乞ふ、

一 九月一日の二十日、大分、其の田に於て其墓を乞ふ、
其の田に於て其墓を乞ふ、

五週年、其の田に於て其墓を乞ふ、

- ・美術雑誌「復古」一稿を収了 九月廿日
- ・雑誌「復古」の「電白」の送る一稿を
寄す 九月廿日
- ・出版部「新活」大隈侯千秋賞「復古」一稿を
寄す
- ・日本橋通「工業」に純り稿を寄す 其雑誌に「酒
と勤王」の一稿を寄す 九月廿日
- ・元田肇八十一大を死す 明治廿代龍作 七月廿日
- ・家長の書画幅百十三點 村山秋浦に寄す
此より 村山六千六万圓と評す 八月廿日

藤原製

- ・法帖類「琳瑯閣」を寄す 此稿方三ヶ月の取
り
- ・文行巻：雑誌「復古」を寄す 此稿三ヶ月の
也 取
- ・大隈侯百年祭ありて 早稲田方三ヶ月の取
り 稿を寄す 十月十二日
- ・濱新橋の「復古」十年の感想を 雑誌「復
古」に寄す 十月廿日
- ・政界維新「ス」に 隨筆を寄す
- ・雑誌「復古」に 時局の「復古」と寄す
- ・廣東漢口攻略 十月下迄

十一月朔旬放送を依頼するをせす

十一月末の出版部を八百圓一時借入十一月十日返金

十一月一日より印刷を多し板紙の修理をせす、全部改築也

軍人後援会と長しとの大隈元侯一編早稲田子報とあり十一月二日

早稲田温交会と記念品代りとして支那の書四冊貸券(十四巻)贈り十一月二日

加算堂三印より「洗心亭詩集」を寄せ来る

榛原製

此の起るに余の事也

八河達吉死去十一月二日

村山に托し書畫を貸主代金の四千圓清算の爲め後八千圓の事也

出版部借入金八百圓返金

書畫を貸主代金の四千圓中一紙の支店へ寄附金とす十一月十日

余の借入金載てし如評書集未三聯到来十一月十日板紙改築成る此二費三万八千圓

同也 十二月十日 村山達吉の事 文行

一 不忍池畔生地院の敗者金を結ぶ筈に因らむ
書は有量とあり同書、余一坊の頭位とあり
此方の書起大竺一寺、世川徳久二端也
一 享和二年一月以来病臥の意、数日前臥
病を蒙り入院、以て危篤に陥り十一月三日
一 家老の金位を蒙り二万圓金杯金時町銀
金位三とあり印は附す、内金位日本銀行
：より代金五万七千七百圓、銀位五万圓と
あり社：字の托代金の銀位十數りの後、病
十一月末日

一 十二月三日午前二時四十分享和二年十二月二十九日
乙丑五、五日午後遺骸を大隈分館に移し
大隈分館葬を行ふ、此方の深井の墓所、今葬
一 早稲田の早稲田の早稲田の葬出願部は
や天地：享和二年十二月二十九日
一 出願部は、早稲田の葬出願部は
一 享和二年十二月二十九日
一 金位千圓（此方金位代を包み込み）あり、此方の
一 享和二年十二月二十九日

九月三十日五十四度と稱し、来る衣代金は
此の取立の支店を以て受取更なる日行、定期
金とする

一 新島町の新島銀行に振込の金を送る

一 新島町の銀行に振込の金を送る

一 大日本印刷会社は本年八分前期と同じ

一 不用洋装の雜本紙部は細川信吉に授け、受取

此項上金八十日也

一 村山の振込の金を送る、二點を印代

金とする十一日領収

榎原製

一 書庫残品三點を来年迄保留、余は全部

村山の引取値は二万八千四百と受取單を

一 武蔵時敷八十四日分を来月二日

一 吉岡の峰より遺物として杉木、伊原春

一 故郷遺費、堅田出立の振込の金を送る
十二月十日迄

一 書庫の用と受取印代金の内金二万五千日迄

一 雑金二入

一 五ヶ所の長持寺に年催の金、余員、分、四十日

支出

一 取上御用金中大悪、羅、五十日見取金と
老

一 余の本年が難保題して成賞堂に納ると云ふ。
八冊合部草紙、別とす年考す。

一 本年一家の大心は高不慮の負傷とて数日其ら病を
す所甚と多し。又本年親戚の友の死すも多
多し大休運也。

一 年末不用の雜本を賣却するに別とす。此年末
の書の盡と賣却し漸やく此は方、取
か、り、也。又印収入金、此金も古儀也。

稗原製

大取左の如し

五千二万九千四

書畫賣却金

千九万七千七

金貨金具賣却

金巻七千七

雜本賣却代

金三万三千四

活版賣却代

金八千四

洋紙賣却代

ソ七中書四十八

内 二千二万四

あつたりの金類

四百四

光澤金、銀入

三千四

あつたりの金類

一 書意未了之際、家出、一房、了、書意、都、都、
 余、死、後、取、御、書、印、了、の、く、て、了、の、も、ハ、長、持、
 一 特、買、了、其、日、終、ハ、成、立、了、座、衣、印、才、七、也、ハ、在、
 一 一、身、ハ、久、い、こと、時、金、の、留、横、か、ら、く、拍、を、辨、ハ、拍、を、
 集、め、了、趣、味、道、示、が、あ、つ、て、ま、あ、く、ユ、シ、ク、シ、コ、シ、
 一 一、何、れ、七、受、取、し、行、々、に、し、と、得、る、家、用、に、
 一 一、先、の、家、を、辨、ハ、了、折、ハ、寄、興、ハ、破、ハ、ハ、家、を、
 一 一、破、采、一、時、氣、共、ハ、巨、額、の、次、也、と、あ、ハ、ハ、

標原製

一 一、ハ、寄、興、ハ、拍、を、受、取、し、七、受、取、ハ、元、七、了、了、願、
 一 一、ハ、了、書、意、未、了、之際、回、寄、等、前、後、十、數、年、百、
 一 一、ハ、受、取、し、了、了、十、數、回、以上、三、及、ハ、今、の、家、
 一 一、を、辨、ハ、時、内、有、人、竟、ハ、右、家、之、前、今、部、也、二、萬、
 一 一、ハ、受、取、し、了、了、大、寄、興、後、回、去、今、部、也、五、萬、
 一 一、回、二、受、取、し、了、了、其、ハ、あ、の、書、中、に、ハ、二、受、取、の、回、
 一 一、ハ、を、一、二、萬、三、千、百、ハ、受、取、し、了、了、其、ハ、元、の、三、千、
 一 一、ハ、も、て、前、年、末、山、を、ハ、折、ハ、寄、興、是、也、三、萬、
 一 一、ハ、由、折、ハ、受、取、し、了、了、ハ、一、ハ、ハ、ハ、
 一 一、ハ、自、今、ハ、近、年、全、然、ハ、負、債、了、了、ハ、寄、興、を、寄、興、ハ、ハ、

まゝあるは、唯此僅うる若干の預金と株券ぬ
入る後の恩給等因り一年の計をまのし
然るも毎月七八の日に要する家計の支
約もさうし、多くもさき預金と返る費額
さうさ、心向き吹かす人々の家産の若
の別荘地三千坪と五軒の居宅并土地
共二一歳の貸金屋と有るは、此の
後、安んずる要する生計の資源也

以下全て

白紙

